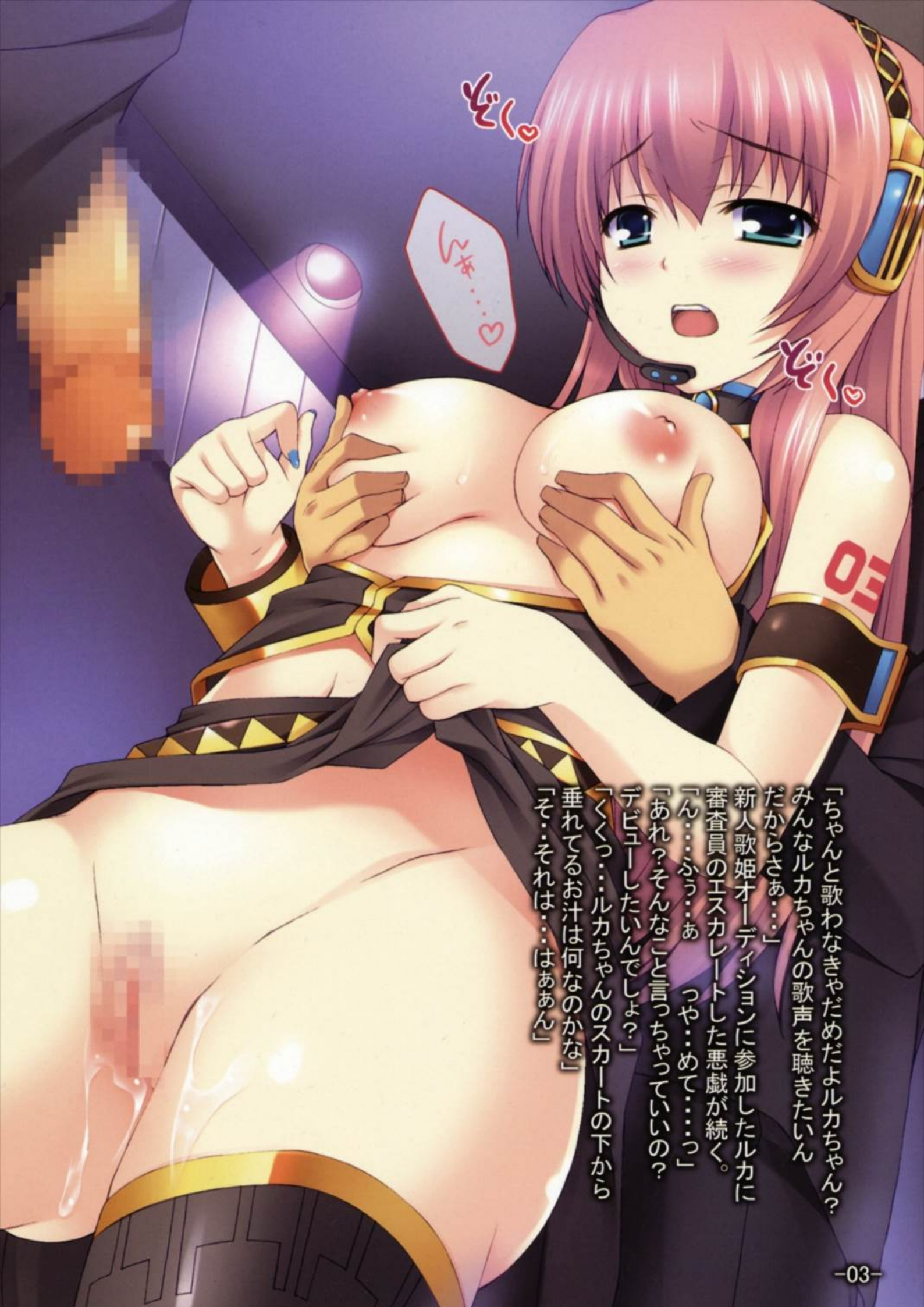


アズール

presented by
SWEETRANCE

R18
Adult
Only





どい♡

んま...♡

どい♡

「ちゃんと歌わなきゃだめだよルカちゃん？
みんなルカちゃんの歌声を聴きたいん
だからさあ...」
新人歌姫オーディションに参加したルカに
審査員のエスカレートした悪戯が続く。
「ん...ふう...あ　　っや...めて...っ」
「あれ？そんなこと言っちゃっていいの？
デビューしたいんでしょう？」
「くくっ...ルカちゃんのスカーツの下から
垂れてるお汁は何なのかな」
「そ...それは...はああん」

「デビューしたいならさ、僕たちを満足させてくれないとね
…ルカちゃんの綺麗な足でしごかれてみたいなあ」
「……」
「……ですか？」
「……」

「そうそう……歌よりこっちのがセンスあるんじゃないの」
男から浴びせられる屈辱的な言葉に耐えながら
懸命に足の指を動かすルカ。

「そのまま自分でおま○こ広げてみようか」

「……そんな……こと……っ……だめです……」

「デビューしたいならそのくらいでできるよね？」

「く……あ……」

男に逆らえず震える指で自分の恥部を広げる。

「すっげーよく見えるよ……あーもう」

奥までヌルヌル」

「っ……やあ……言わないで……」

きんぽん♡

くいんぽん

くいんぽん



「ちゃんと歌えよ？ルカちゃんの大好きなもの
挿れてやるからさ」

ぐぶ……ぐぶ……ぐぶ……

熱く脈打った男のものが膣の内壁にもぐりこんできた。

「んっ……っふあああっ」

肉をこすり侵入してくる感覚に甘い声が漏れてしまう。

「それどうした？プロなら歌えるだろ？こんなことされてもさっ」

グジュツ グジュツ グジュツ

「は……ああんっ……こ……んな状態じゃ……はあんっ」

歌声を出さなければならぬのに、出てくるのは喘ぎ声ばかり。

「しょうがねえなあ……じゃあ俺がリズム合わせてやるよっ」

グチュンッ！グチュンッ！グチュンッ！

「っ……あっ……あっ……あっ……あっ……あっ……」

ぐぶ
ぐぶ
ぐぶ

ぐぶ
ぐぶ
ぐぶ

「やあ…だ…め…つい…イク…っ
イツちやいますううっ」
体をのけぞらし、ビクンビクンと
痙攣させるルカ。絶頂による膣内の
収縮に肉棒も反応する。
「くう…すげえ絞まつてるぜ…さて
そろそろ膣内に注いでやるからな？」

ズチュツ！ズチュツ！ズチュツ！
ぐったりする間も与えず、男のピストンが
いっそう激しさを増した。
「ふあっ…あっ…も…もっらめえ…っ！」
「…だすぞっ！」
「ふあっ…あ…あああああっ！」
ビュルツ！ビュルツ！
熱い精液に押し流されるように
より敏感になったルカの体は再び絶頂を
迎えた…

「んああ…はあっ…もっ…
もつと深く突いてくださあいつ」
何度も絶頂を迎え快感に
支配されたルカの体は自ら肉棒を
欲しがるようになっていた。
「はあっ…すっ…っ 気持ちいいトコに
当たってます…っ」
「へへ…ルカちゃんまたイきたいの？
おま〇こがキュウキュウ痙攣してるよ」
「は…いっ…また…イきたいの…っ
イかせてください…っ」

たぶ

たぶ

ずちゅん

ずちゅん

ずちゅん

きゅん

きゅん

「やらしいコだなルカちゃん…
じゃあもつと激しく突いてあげるよ」
「ふああっ…ああっ…いいっ
いいです…っ」
幾度目かのオーガズムが再び
ルカを包んでいく。
「ひゃあっあ…来る…っ
熱いの奥にくださひ…っ！」
肉棒がルカの奥で痙攣を始めた後
熱い精液が膣内を満たしていく。
「いく…いくっ…はああああんっ…」



「はあ…はあ…はあ…はあ…んん…っ」
審査員全員の欲望を受け止めた
ルカはぐったりしながらもふるつと
全身を痙攣させ、快楽の余韻に浸っている。
「くっ…おめでとぅルカちゃん
オーディションは合格だよ。
これからも頑張ってもらおうからね…その体で」
「あ…は…い…い…」
何が「合格」なのかは分かっていた。だが
快楽の本能に支配されたルカには
拒む理由はなかった…

はっあ……んっ

「よしルカ……今日はレコード会社の皆様に
気に入られるようによく体をほぐしておくんだぞ」
「……はい……社長……」
「……ちゅくっ……」
「ん……ふ……うっっ」
ほんの少しくリトリスをいじっただけなのに
ジュワツと粘液が膣内に溢れる。
ぐちゅっ ぐちゅっ
「はあ……あん……ああ」
全身を包む甘い快感を貪るように指を動かす
度、くぱくぱと膣が開き愛液が飛び散る。

おちゃっ

おちゃっ

「くっ……ん……っ
もうだめ……ほしいのお」
自分の指だけではもう我慢できずに
思わず口に出してしまう。
「はは……っ やらしい娘だなお前は……
そら、もういきそうな顔をしてるぞ？」
「凶星を突かれてギクリとしながらも、
こみ上げるオーガズムへの快感は
止められなかった。
「んあッ……ひ……いく……やあ……
イツ……ちやいます……うんんっ！」

「ふふ……どうです？うちの

歌姫たちは……」

「ほほう……なかなか仕込まれてる

ようですな……事務所の教育のたまものですな」

取引先のレコード会社の幹部、音楽家など大勢が

取り囲むようにルカとミクのレスシヨを吟味している。

「はあん……いいのお……ミクの「ゴ、ふにふにして気持ち

いいよお……」

視線に犯されながら、快楽を求めて秘裂をこすりつけるルカ。

どい
どい

03

きゅ♡
きゅ♡
じゅゅ
じゅゅ

「ん……ふあ……あ……」

ピクピクと体を痙攣させ、今まで

恥辱に耐えていたミクが声を漏らす。

「ふふ……っ……ミクもニ」が気持ちいいの？」

お互いのクリトリスが擦り合い、二人を快感の絶頂へ

導いていく。

「はああ……だめ……ルカ私……いっちゃうよおお」

「わ……私ももう……っミク一緒に……一緒にいい」

ピク！ピクピクピク！

二人の粘液でぐしよぐしよになった秘裂がばくばくと

いやらしく痙攣し、待ち焦がれた

絶頂の波がやってくる。

「イ……イク……ふあああああつ」

んあぶ;

ちゅちゅ

にゅ;

ぬちゅ
しゅちゅ

下の口も開かせてやろう

「あっ！ 何して…んはあッ

そっそこは…やっ！ 触らないっ…でええ！」

ちよっと肉びらを指先で撫で回しただけで

いやらしい汁がオマ○コからぼたぼた溢れ出てくる

「あああんっ…ひあ！…くううう〜」

淫行に耐えるルカの喘ぎ声が

耳元で心地よく響く

グズグズ

のびる

ぷるっ

まだまだ声量が足りないな

俺は起立した自分の肉棒をルカの口に
咥えさせ発声練習をさせてみる

「!? やっ……!! こ…こんな大きいの
無理いッンぐっ!! んんんん…ッ!!」

お前に拒否権はないんだ!

半ば無理矢理にチ○ポをねじ込むと

唾液にまみれた口内で

ルカの柔らかい舌が激しく上下する

「そんなニッ ひあッ激しくう…しないでえー!」

ルカと俺は快感の絶頂に達する

「あひッ くうん あっ あっダメー!…イッちや

イッちやううのおおお〜!」

外に…だ
めえええ!!

もゆ
ぢゅ
ぢゅ

ぢゅ
ぢゅ
ぢゅ
ぢゅ

俺は尿道からこみ上げる

精液を一気に放出する

「ダメえッ! なっ 膣にはッ

膣には出さないのでええええええ!

ねっとり白濁したザーメンが

ルカのオマ○コに容赦なく注ぎ込まれる

「ううっ…んくっ ひくッ…
さ…最低…マスター…!!」
ふん、なんとでも言え
ルカ…お前はこれから
俺の歌うオナペットなんだよ!
「お願い…もう許して…
な…何でもするから…っ」
そうか…じゃあ今度は
そのデカイ尻をこっちに向ける
「えっ!?…むっ無理! やッ
いやああああああ…!!」

ビクッ

ビクッ

びび
びび

ビクッ

とっ



オウツク

こんにちは、水原優です。個人的にヴォーカロイドの中でルカさんが一番いいです^^ページの都合でパイズリ描けなかったのが心残りです
夏コミは個人サークルRip@Lipで出ますんで、よろしく
お願いします~!

鎖キャタピラ

発行
Sweet Rance

作者


水原優・よしろん

発行日

2009/6

印刷

関西美術印刷様

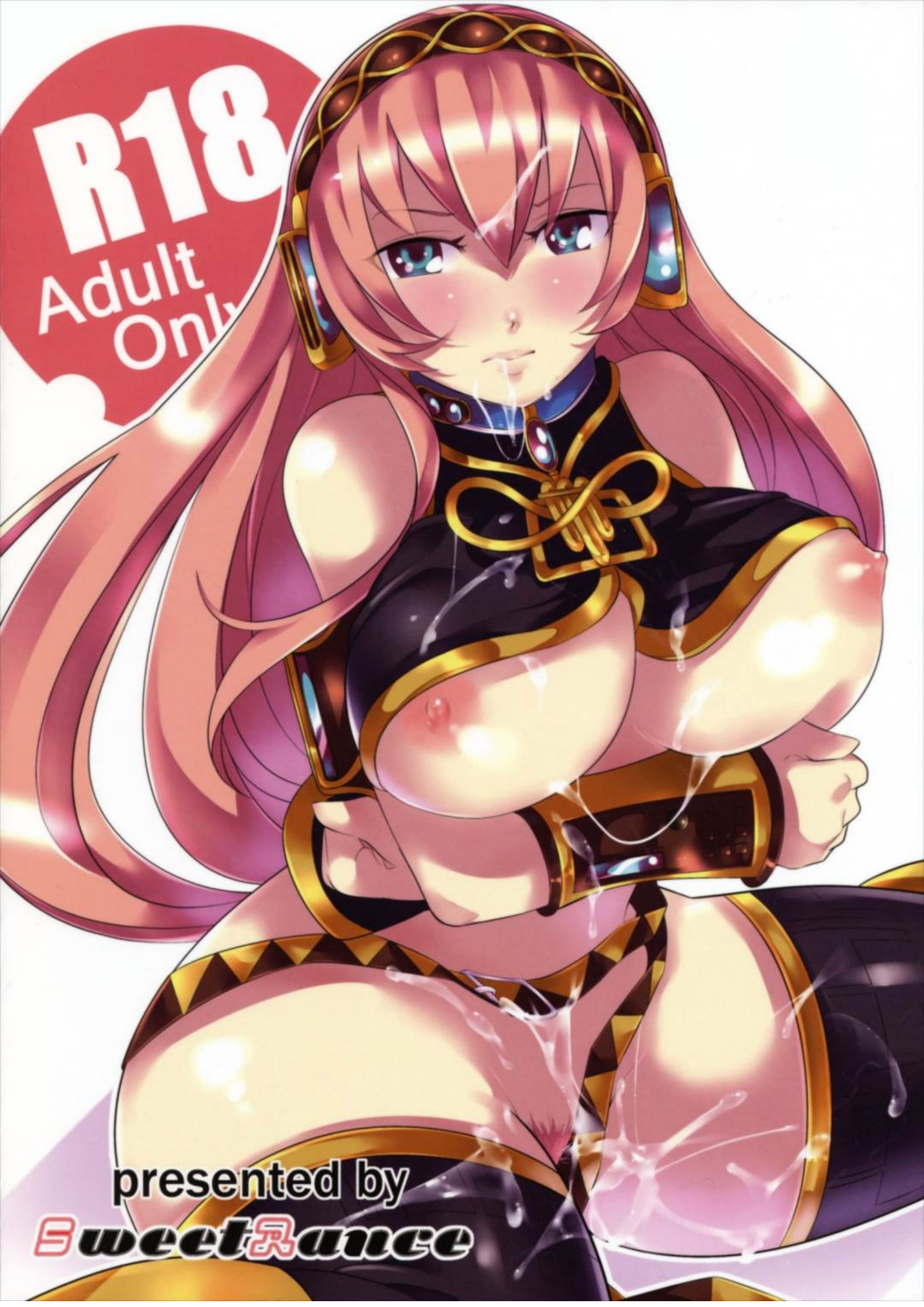


初めましてっ
同人誌初参加の超新参者、よしろんです
色々四苦八苦しましたが水原先生の手を借り
なんとかカタチになることができましたっ^^

これから合同も含め個人でも同人活動をスタート
させる所存です!よろしくお祈りします(*> ㊦ <)/

【HP 鎖キャタピラ】 <http://44ron.blog34.fc2.com/>

<http://sweetrance.main.jp/>



R18

Adult
Only

presented by

Sweet & Spice